

わがよそはひは
綾あやもにしきも
人の世ひとよの
およばしな

つばなは軽かろき
くろき羽袖はそでに
さまゝの
わかころも

わかれこそ蝶てふの
王きうならめ
清きよけれと
色いろはよくとも

しろたへの衣きぬ
山吹やまぶきがさね
清きよけれと
色いろはよくとも

言はず語らず春の日の

野口雨情

言はず語らず春の日の

潮うしほはなやぐ朝あさぼらけ

言はず語らず春の日の

陰かげにこぎ行く漁舟いさなふね

言はず語らず春の日の

永ながき光線ひかりせんの海うみの上うへ

言はず語らず春の日の

静しずかに沈ながむ雲くものいろ

言はず語らず海士うまびとの
波路なみちをかへる夕間暮ゆふまぐれ
言はず語らず海士うまびとの子こが
磯いその子松こまつの陰かげに立ち
言はず語らず沖行雲おきゆくもの
雲眺そらながめ待まちつは誰たれ子こぞ

花の袂

かすむ春野はるのに
もえいづる
つねを

すみれ蒲公英たんぽぽ
つくづくし

はなのたもとに
あまるまで

摘つむうれしさを
門かどに待まちつ

妹いもうととはゝとに
わかたばや

あねと弟あとうに
みせばやな

